

家畜衛生だより

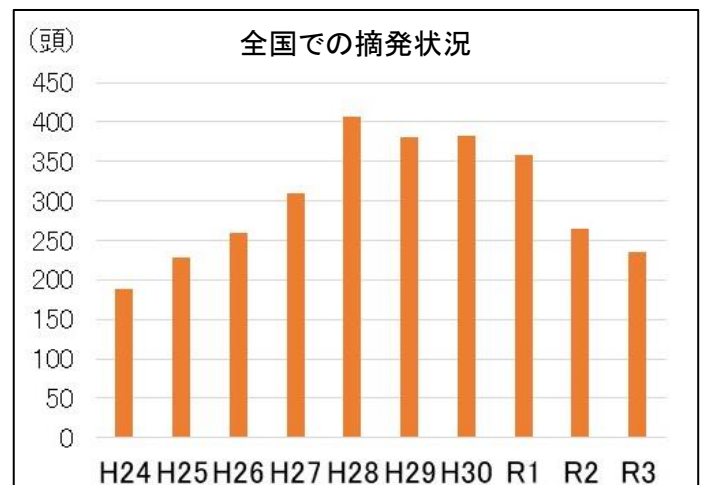
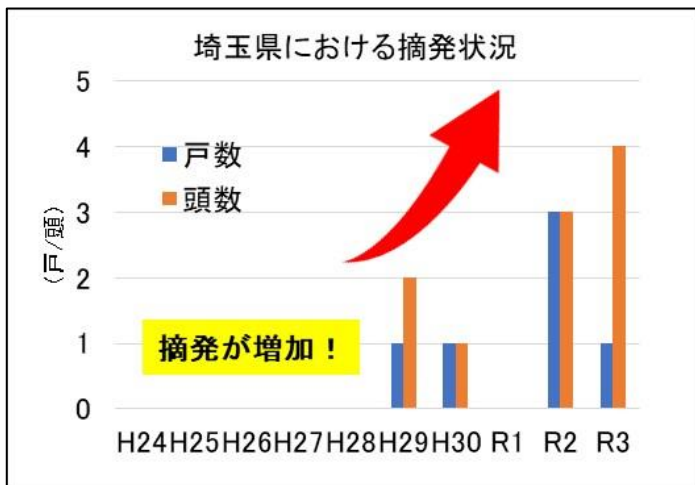
☆バルク乳を用いた牛ウイルス性下痢（BVD）検査について

令和4年3月23日に令和3年度2回目のBVDバルク乳検査を実施しました。

遺伝子検査(PCR)の結果、県内2戸で陽性が確認されました(中央管内は全戸陰性)。

BVDは全国的に摘発が続いており、県内でも増加傾向にあります。農場へのウイルスの侵入・拡散を防ぐため、外部からの導入等、牛の移動があった場合はワクチン接種履歴を確認し、接種歴がなければ検査を実施してPI牛の早期摘発を行いましょ。

※PI牛：妊娠牛に感染した場合、胎齢によっては生涯にわたってウイルスの保有と排出を続けることがあり、これを持続感染牛（PI牛）といいます。PI牛は明確な症状を示さない場合があり、新たな感染源となる可能性があります。



◎BVD対策について

①定期的な検査の実施

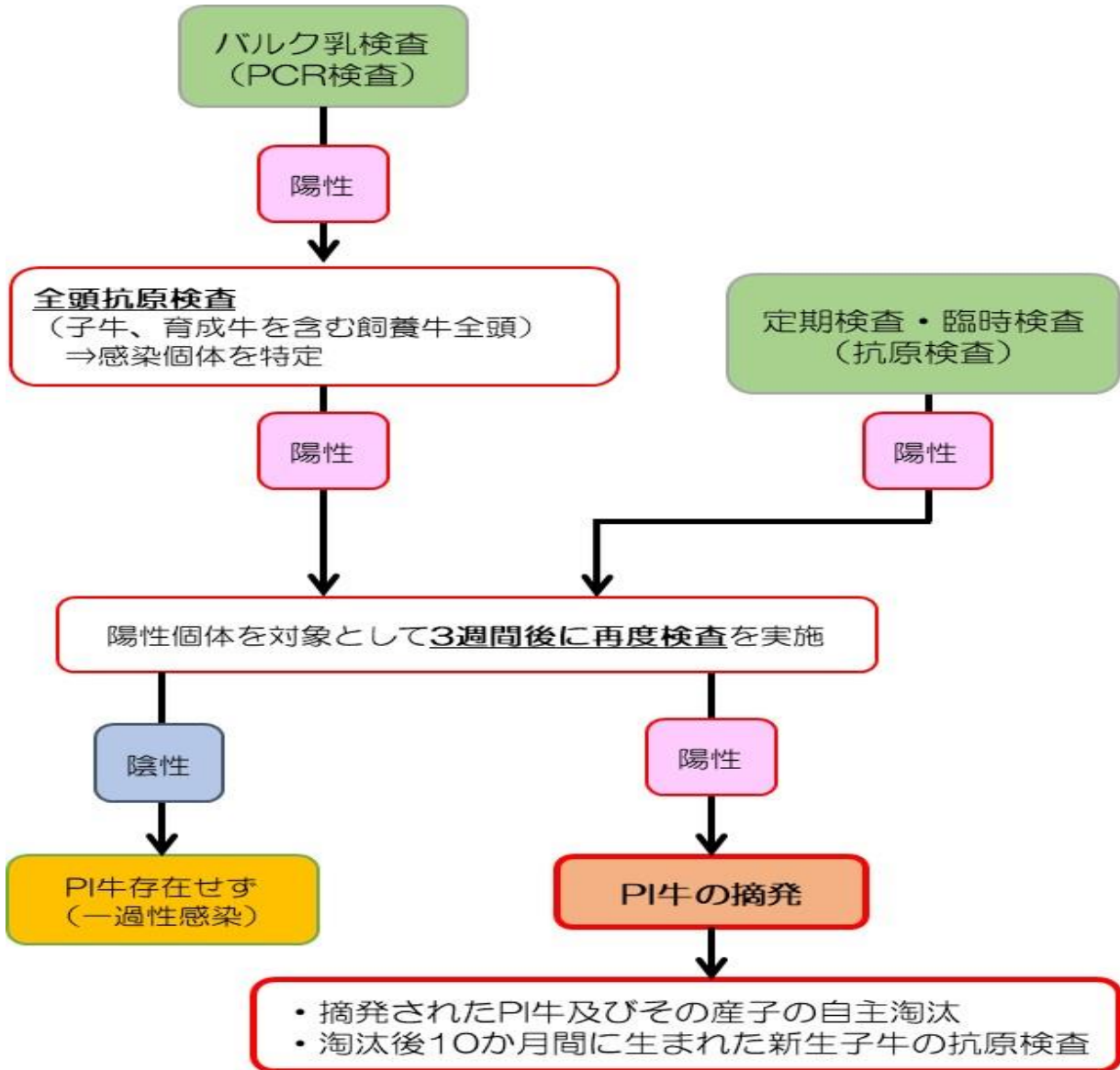
今年度も定期検査・臨時検査とバルク乳検査を実施予定です。感染拡大の原因となるPI牛の早期発見や農場の清浄性確認をしましょう。

②ワクチン接種

感染予防にはワクチンが有効です。BVDワクチンには不活化ワクチンと生ワクチンがあります。生ワクチンは妊娠牛に接種すると胎子がPI牛となる可能性があるため、その場合は不活化ワクチンを接種しましょう。

◎万が一検査で陽性となった場合は？

定期検査・臨時検査では抗原検査（ELISA検査）、バルク乳検査では遺伝子検査（PCR検査）を行います。それぞれ陽性となった場合はPI牛を摘発するためにさらに以下の流れで検査を行います。



牛乳の異味異臭原因物質について

- 原因物質の一つ：2-Iodo-4-methylphenol (2I4MP)
- ヨウ素系消毒剤が牛ふん中の成分と反応 → 2I4MP が多量に生成 → 密閉空間でも生乳に移行する可能性あり

ヨウ素系ディッピング剤は牛床や床、排水溝に廃棄せず、牛ふんに接しない形で適切に処理をしましょう。



☆ 定期報告書の提出はお済みですか？

定期報告の提出締め切りは、4月15日です。

まだ、お済みでない方は、お早めに提出をお願いします！

令和4年度の当所の体制をお知らせします



		新体制		前任者	
			(元の所属)		(転出先)
所	長	田中美貴	農業技術研究センター	丸山盛司	退職
副所	長	窪田美佳	浦和競馬組合	加島恭美	農業技術研究センター
総務担当	主任	田端律子			
家畜防疫担当	担当部長	青山達也	農業大学校	木下明子	退職・再任用
	主任	宮下知世			
	主任	守屋由貴			
	技師	押尾麻貴			
病性鑑定担当	担当部長	多勢景人			
	担当課長			山岸聡美	川越家畜保健衛生所
	担当課長	金子純高			
	主任	小池絵理子			
	主任	春山優唯			
	主任	石田扇子			
	主任	松本裕治			
	主任	山本栄子			
	主任	小泉舜史郎			
	技師	村田拓馬			
	技師	渡部修弘			
	技師	森谷翠			
	技師	近藤晴哉			
専門員	山品恒郎				
畜産支援・安全対策担当	担当部長	平田圭子	川越家畜保健衛生所	武末寛子	畜産安全課
	主任			深谷祐加子	熊谷家畜保健衛生所
	主任	杉山香奈			
	技師	服部七星	新規採用		

中央家畜保健衛生所 (さいたま市北区别所町 107-1)

開所時間 平日 8:30~17:15

TEL : 048-663-3071 FAX : 048-666-8731

休日、夜間は緊急携帯電話に自動転送されます。(緊急携帯電話:090-2757-1650)

